



バスのお出かけ、 雨でも平気

梅雨に入り、雨の多い季節となりました。徒歩や自転車ではちよっと...というお天気も多くなると思います。お出かけの際にはコミュニティバスを利用してみてはいかがでしょうか。

今号は、龍ヶ崎市の串田武久市長と、東京工業大学の藤井聡教授の特別対談をお送りします。



藤井先生

特別対談



串田市長

串田市長、龍ヶ崎の交通のこれからを語る

【発行】
龍ヶ崎市都市整備部都市計画課
交通体系推進グループ
〒301-8611 龍ヶ崎市3710番地
TEL 0297-64-1111(内線555)
FAX 0297-60-1588

【協力】
東京工業大学土木工学科藤井研究室
筑波大学社会学類谷口研究室

龍ヶ崎市の公式ホームページでも
コミュニティバス通信をカラーで
ご覧いただけます。
<http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/>

藤井先生
今日は、龍ヶ崎市のコミュニティバスと交通問題について、市長のお話を伺いたいと思います。まずは、龍ヶ崎市の交通全般についてお聞かせ下さい。

まちの形は、交通網で決まる

串田市長

龍ヶ崎市は元々、木綿や繭(まゆ)の栽培や養殖が行われてきたまちです。これらの製品を消費者に運ぶ手段は、水運が中心でした。そこに鉄道ができて製造業の会社が来たのです。つまり、交通体系の発展が、市の発展に大きく寄与してきました。

藤井先生

交通計画の専門家の間では、鉄道などの軌道交通でまちの形が決まると言われています。そして、血管のように張り巡らされるのがバス網なのです。

串田市長

まったくその通りです。交通は市民生活にとって、動脈のようにとっても重要な要素です。例えば、平成11年に実施した市民アンケート調査では、龍ヶ崎市の嫌いなところとして「交通が不便」という項目が一番に挙げられていました。市長に就任してすぐに、これは

市交通計画に本腰を入れないと、と強く決意したことを思い出します。バスに関しては、民間が運営する路線バスと市が運営するコミュニティバスの役割分担をきちんと行い、市全体としてのバランスを考えていくということも重要になりますね。

藤井先生

具体的に、どのようなコンセプトで龍ヶ崎の交通を考えることにしたのでしょうか？

昔は衣・食・住、今は医・職・充

串田市長

昔は衣食住が足りていれば、人々は満足していました。龍ヶ崎市は木綿と繭(まゆ)が主要産業でしたし、お米も取れます。つまり衣食が満たされていて、それに伴って住も満たされていたのです。ところが、今は日本が豊かになり、衣食住が満たされているだけでは市民は満足してくれません。今後のまちづくりの新しいコンセプトは、医・職・充であると思っています。医を充実させるには、医療機関を誘致するだけでなく、そこまでの「足」つまり交通機関を整備しなければなりません。また、職、つまり雇用の場を確保するためには、企業に「龍ヶ崎市に立地したい」と思ってもらわなければならない。産業の誘致には「交通の便」が重要になるのです。

藤井先生

企業の通勤交通のマネジメントも大切になりますね。

串田市長

そのとおりです。現在、市にある工業団地では、それぞれの企業が通勤時間帯にシャトルバスを運行しています。これを市の運営する交通機関と連携して走らせることも検討したいと思っています。

最後に、「充」です。これはコミュニティの充実ということなのですが、市民の方々の

生活を充実したものにするために、交通はとても重要なものです。例えば買い物や、たつこアリーナ、湯ったり館などの市の施設への行き来には「足」、つまりバスが必要になりますね。

藤井先生

医・職・充の全てに密接に関わっているのが「交通」なのです。

子どもたちに愛されるバスを目指して

藤井先生

私は東京に住んでいるのですが、実は隣の家の方の実家が龍ヶ崎市なのです。先日、「藤井さんのお父さんが載ってるよ」とコミュニティバス通信(ニューズレター)のコピーを持ってきていただいて、市のバスの話題で盛り上がりました。そこで印象的だったのは、隣のお子さんが、市のバスにとっても愛着を持っているということ。車内に貼ってある子どもの絵が大好きだそうで、「ほくも乗ったことあるよ」とうれしそうに話していました。

串田市長

市内でコミュニティバスとすれ違うとき、子どもが乗っているとそれだけでうれしくなりますね。子どもたちが、バスに興味をもってくれているのがとてもうれしい。時刻表などもよく知っているんですよ。最近、子どもの安全というキーワードが言われていますが、下校時の安全という観点からも、コミュニティバスがお役に立てる方法がないか、考えているところです。子どもたちが愛着を持って乗れるバスができれば、かなりいいまちになるのではないかと思います。

藤井先生

ほんとうにそうですね。子どもたちに愛されるバスを目指して、これからがんばってください。本日はありがとうございました。